

## 特集 2 : 「南三陸コミュニティーガーデン造りについて」 No. 4



地元の方々と一緒に



植物も全て移植しました



撤去の終わったガーデン



撤去した材料で新たに砂場とレイズドベッドを制作しました。



2012年春に始まった宮城県南三陸志津川町でのガーデン造り。様々な形で多くの方にご協力、ご支援、ご尽力いただきました。9月29日～30日の庭造りで当初予定していた作業を終了しミッション完了！素敵な庭ができました。ところが、メーリングリストでご報告をした通り、本当に残念なことにガーデンの移転を余儀なくされました。町の計画変更により、2～3年先と言われていた建物の基礎及び浄化水槽の撤去が急遽決まったのです。庭完成と同時に向き合うことになったこの事実で愕然としつつ、11月に日帰りで澤田と深町が南三陸に行き、現地の方々とお話しました。まずみなさんにお伝えしたいのは、本当に多くの方があの庭の移転について親身になって奔走してくださっていたこと。solaの平田さんへの地元の方の信頼の厚さも実感しました。毎回徹夜で作業に来たJHTS会員の姿、出来上がった庭の役割、そこで遊ぶ子供たちの様子が地元の方々に伝わったのでしょうか。ガーデンの地主Cさんは、申し訳ないね～と何度も仰り、庭をそのままにするように役場にわざわざ交渉に行き、仮設の中で交錯する様々な情報に不安を感じ、ガーデンのこと、私たちのことを心配して過ごされていました。

佐藤区長さんは、何度も何度も役場の様々な課に出向き、いろいろな可能性を探り、また地元の地主さんたちにもご連絡くださり、移転の方法を探ってくださいました。

11月23～25日の連休に南三陸に移転作業に行き、砂場とレイズドベッドはガーデン隣地のコミュニティーセンター愛信望館に、そして地区センターにもガーデンの一部を移転、植物の生命もすべて守り引っ越しました。撤去はあっという間の出来事。夢だったのかしら、、、と思うようでした。庭は分散されましたが、しっかりと新しい場所で馴染んでいます。私が以前勤めていた公益財団法人日本花の会から100本の桜の苗木を送っていただき、地元の子供たちの手で植えられ、その成長も楽しみです。

11月の作業では、たくさんの方にお目にかかり、貴重なお話しを伺い交流をすることもできました。4月の視察から7か月にわたり私たちの活動が徐々に伝わって、よい関係ができて嬉しいです。

被災地は事情が二転三転する中、みなさん本当にがんばっていらっしゃいます。徐々に植物に目を向けて、世話をする気力や余裕が出てきていらっしゃるのかなと感じます。

春からは定期的に庭の手入れとともに、地区センターや仮設住宅でプログラムを展開する予定です。地元の方々の、そりゃいいね～楽しみだ～と言うお声に応えて。

代表 澤田みどり

### 「ガーデン造りに参加いただいた皆さんの感想」

スタディ 17期生 森 陽子 (長野県)

「作業では、バケツリレーしたり頻繁に交代したり、一人に負担が行き過ぎないやり方やいかに楽しくやるかを皆さんから学んだ。砂場が完成し、早速遊び出してくれた女の子達。ガラスの破片を心配しないでいい砂場から、フツの日常がどんなに有り難く大切か

を実感した。

五回目では、現地の方々の胸の内をほんの少し分けて頂いた。悲しみ、後悔、怒り、自責、喪失、あきらめ、希望、感謝…いろんな感情がごちゃまぜで苦しいのに、それでも私達に笑いかけて下さる。でも、私達

は素通りしてはならないと思う、その胸の内を。今こそ忘れるのではなくつながること。誰もが自分の好きなことで現地の誰かとつながり細く長く関わり続けられたら…私はそこに大切な人達ができたから、また行って、今度は一緒に海草染め!?!にチャレンジしたい。」

#### JHTS 園芸療法コーディネーター スタディコース 11 期生 田淵 清美 (千葉県)

今回は撤収という少々残念な作業ではありましたが、先発隊として 11/21 (木) に日帰りにて参加してきました。紆余曲折～事情がこみいっているいろいろな変化があること～まさに広辞苑のとおり。いろいろあつての今回の撤収・移転は次に繋がる大切な作業。土袋には、移動する花壇のまだフカフカの土と一緒にそんな想いも詰め込んできました。

超寒い!と聞いていたのに当日はウソのようなポカポカ陽気。栗井さんと共に仙台駅からレンタカーにて珍道中。11 時過ぎに到着し作業に合流。ひと汗かいてサンサカフェでランチ。さんざんまったりして午後の作業。暗くなる前に終了し帰路へ。現地滞在時間より移動時間の方がうーんと長かったけど、まったくそんな気がしません。充実した一日でした。

暖かくなって草木が芽吹きはじめたら、また私たちの出番ですね。植物と共に過ごすステキな時間づくりにまた行きたいです。ぜひ次はご一緒しましょう。

#### JHTS正会員 高橋 宣子 (東京都)

深夜の渋谷ハチ公前是人でごったがえし、道路工事まで始まり車を寄せる隙間も無い状態。“23 日 1 日だけのお手伝いを”と思いついた私は、急遽深町車に乗せていただくことに。現地の寒さを思い着膨れたメンバーと作業器材を目いっぱい積込んで出発。運転手深町隊長は、次々に刺激物を口に放り込み、眠気を追払うため頬をパチパチ叩きながら運転、後ろ座席でぬくぬくしてるのが申し訳ない限りでした。

明け方到着の現地セブンイレブンで朝食のおにぎりとお茶を購入。先発隊の作業が進んでいて、植栽は掘り上げ済み、袋詰めが山になっています。天気予報は昼ごろ雨とのこと、早速に作業開始となりました。私は指示を仰ぎながら、塗る・運ぶ・はがす・ひっこ抜くを続け薄日も射し汗ばむほど。

そろそろ疲れが見えた頃、ポツポツと雨を幸いに、地主さんの話を聞きながらお茶に。きつと話したいことたくさんあるのでしょうか。1 時間ほどの雨でした。

昼過ぎ、高台の仮設住宅で催事があると聞き、花壇の一部を移設する地区センターの見学方々皆で出かけました。カレーや豚汁をご馳走になり、結婚式に拍手をし、心も少し温まりました。器材の準備、段取り、電動工具を操作する DIY 女子、その場所に合わせ出来る作業の見極めなど、プロの仕事垣間見ることができ、私にはととても良い経験になりました。

もっと地元の方たちを巻き込んでの作業ができれば、楽しさ倍増しそうに思えました。

南三陸での被災地支援活動は、JHTSをご支援くださっているメディアサーカス代表取締役作間さんに平田さんをご紹介いただいたことから始まりました。平田さんからJHTSへメッセージをいただきました。

#### Sola 平田 美保

「被災地の子ども達の 10 年後を共に見上げて歩いていきたい」そんな思いを抱いて、震災後、東北での活動を始め、「Sola」という団体を立ち上げました。ある日、澤田さんとお会いする機会があり、被災地の支援について真剣に考えておられることを知りました。そして震災から一年を過ぎた頃に、東北の被災地に深町さんと共にいらしてくださいました。この被災地の中で、どんなことをすれば復興の足がかりになるだろうか、という視点を持って、私が案内する石巻や南三陸の場所を真剣に見つめてくださり移動中の車でも被災地の状況やいろんな話をたくさんさせていただきました。いくつか回った中で、南三陸の志津川の住居跡に案内しました。その場所は高台にある高校の真下でそこにあった住居はすべて津波で流されている場所です。この場所に緑があったら、高台にいる仮設の住民の方やその場所を通られる方々が、ふっと心が軽くなるかもしれない。そう思った矢先、深町さんが素早く紙にペンを走らせ、あっという間にその場所の図面を書き始めました。それは見ているだけで温かくて楽しい気持ちになれるガーデンの図面でした。何もないこの灰色の場所を見て、こんな図面が書けてしまうことに驚きましたが、実際その図面がただのイメージではなく、その被災地で現実の形として成してきた時には感動しました。被災地に緑が増え、そこがコミュニティの場所になり、子ども達が安全に遊ぶことができる場所となる。それは何よりの願いです。しかし、それと同じくらい、園芸療法の皆さんがこの被災地に貴重な時間、金銭的負担、持っていらっしゃる能力を携えて、その全てを惜しまず来てくださるその度に、私自身が何度も励まされ、活力を頂きました。人は一人で頑張ることはなかなかむずかしいです。でも思いを共有できたり、一緒に目標を見つめることで、自分が思った以上のことをすることができたりします。被災地は状況がある日突然変化することがあり、ガーデンも移転を余儀なくされたりしました。しかし、そのことによって思いもよらない出会いや次の道が生まれます。肝心なことはどんな状況になってもあきらめないで、そこできるとするということを決意を捨てないことなのだと思います。被災地は復興をあきらめていません。だからこの場所には希望があります。これからどんな展開になっていくか楽しみながら活動していきたいと願っていますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

